



光本 一也 議員

Q 「危険な通学路」箇所数、安全対策は

A 町長

19か所。カーブミラーの調整、道路外側線の引き直しなどを実施している。

【Q1】今年6月に千葉県八街市で発生した下校途中の交通死傷事故を受け、本町が実施した危険な通学路の総点検の内容と結果、事故防止対策は。

【A1】学校から報告のあった19か所の危険箇所を県西部建設事務所、海田警察署、町が合同点検を行い、カーブミラーの調整や道路外側線の引き直し等を行う。

【Q2】県道の抜け道になっている大変危険な第一小学校通学路に「ゾーン30プラス」の整備を県警に要望してほしい。

【A2】新たな施策「ゾーン30プラス」は、地域住民の理解が必要である。今後、事例等を参考に調査研究したい。

【Q3】「ゾーン30プラス」とは、時速30キロ制限の交通規制「ゾーン30」と路面を隆起させる「ハンプ」など車の減速を促すハード対策を組み合わせた施策。

【A3】国は、通学路や避難路に面した危険なブロック塀等の撤去及び建替え費用の補助制度を創設し、自治体に事業実施を促している。本町も直ちに制度創設すべきである。



▲危険なブロック塀

【Q3】制度創設に向け準備を進めている。来年度当初予算に計上したい。



福垣内 邦治 議員

Q 広熊トンネル熊野出口付近の直進2車線化を求める

A 町長

県において工事着手に向けた準備が進んでいるように聞いている。



▲平谷交差点の状況

【Q1】無料化より約1年、日中でもトンネル内で渋滞を起している。右折は2車線あるのに対して直進は1車線。多くの町民から見ても得いかなない。

【A1】直進を2車線にして欲しいとの町民の声が多々あることは承知している。

【Q2】強くトンネル熊野側出口の直進2車線化をお願いしていただきたい。

【A2】交通量の多くは直進車両であり、現在その傾向だと思われる。道路管理者である県へ早期の対策を働きかけていく。

Q 今後の県道矢野安浦線の延伸は

A 建設農林部長

東広島市に連絡する熊野黒瀬トンネル方面に円滑に連絡することが望ましい。



▲県道矢野安浦線

【Q1】他町で見たが「県道推進室」なりの設置を考えることはできないか。

【A1】現在、建設課で対応している。現組織体制で効率的、積極的に取り組んでいきたい。

【Q2】県庁及び西部建設事務所等との連携は。

【A2】最近では県庁等関係機関への要望活動を10情報発信の在り方については、今後の事業進捗等も踏まえて、県とも調整しながら積極的に検討していく。

【Q3】「県道だより」との広報物を他町で見た。これもまた一案かと思うが。

【A3】月に実施した。引き続き県と連携を図りながら、将来的な事業化に向けても要望していく。

Q 特殊詐欺の現状と被害防止対策は

A 住民生活部長

毎年、町内で被害が発生。警察と連携し、注意を呼び掛ける。



【Q1】本町の特殊詐欺の認知件数と被害額は。被害者の年齢層は。

【A1】令和元年1件、38万2千円。令和2年1件、450万8千円。令和3年(10月末迄)2件、304万円。被害者の約80%が65歳以上の高齢者である。

【Q2】町が取り組んでいる高齢者を特殊詐欺から守る被害防止対策は。

【A2】警察OBの専門員による町内巡回、町ホームページでの注意喚起、消費生活相談員などによる出前講座等を行っている。

【Q3】町が被害防止のチラシを作成し、地域の民生委員さんにチラシ配布と注意喚起をお願いしてはどうか。

【A3】防犯機能付き電話機とは、詐欺や迷惑電話への対策機能を有する電話機。非通知等の怪しい電話を自動でシャットアウト、録音していることを相手に自動で伝える、着信ランプの色で相手を確認できるなどの機能がある。

【Q4】県警は被害防止に効果がある防犯機能付き電話機の設置を呼び掛けている。県内では呉市などが、この電話機の購入補助金制度を創設している。本町も制度導入を考えてほしい。

【A4】制度創設について検討したい。